

10. 学校評価～最終評価の結果と改善策～

学校教育目標

確かな学力をもち、心豊かでたくましく生きる子の育成
～自力、全力、底力を発揮して～

① 確かな学びのある学校づくり

○児童アンケートの1と2の結果から、児童は意欲的に対話しながら学びを深め、自分の考えを発表したり、友達の話を聞いたりしている。

▲漢字や計算などの基礎的な学力の定着について、肯定的割合が職員(75%)・保護者(84%)・児童(72%)と全てが課題と感じている。

☆授業では、一人一人の曖昧な点をそのままにせず、ホワイトボードに明示させ、それらの点について話し合わせ、全員の「できた」「分かった」を目指していく。

☆3学期の10分学習の取組である「たこピタ」を通し、それぞれの児童の国語や算数の苦手分野のプリントに取り組ませ、直しまで徹底させることで、基礎基本の定着を図っていく。

② 温もりのある学校づくり

○どの項目も全体的に肯定的意見の割合が高い。学校生活についての項目は、職員・児童・保護者全て肯定的意見が100%であり、児童が楽しく落ち着いて学校生活を送ることができている。

▲家での役割についての項目では、保護者の肯定的意見の割合が7月は80%、12月は68%と12%減少している。

☆ファミリーデーの取り組みだけでなく、学校での学習やその他の活動と結び付けながら、家庭で取り組める運動やお手伝いなどを定期的に取り組ませる。

③ 健康な体を育む学校づくり

○3項目を平均した強肯定の割合は増加しており、健康や安全に関して興味・関心が高まっている。

▲生活習慣についての項目では強肯定の割合が減少しており、健康的な生活を送っている意識が低い。

☆生活振り返りカードの様式を工夫し、児童が保護者に取り組みの様子を共有・アドバイスをもらいながら取り組む形にすることで、家庭との連携を深めながら学校全体で生活習慣の定着に取り組む。体力づくりについては、今後もスポチャレへの参加を継続するとともに、完成した仮設グラウンドを積極的に活用し、体力向上につなげる。

④ 地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

○学習発表会や地域との交流行事(球根植えなど)で、児童や学校の様子を見ていただくことができた。

○地域の方(保護者、公民館長さんなど)を道徳のゲストティーチャーとして招いた。

○学校便りや学校HP、学級通信等で情報発信することができた。

▲第5仮設団地との交流はあるが、そのほかの仮設団地や地域の方との交流があまりできなかった。

☆「地域のよさ」を洗い出し、教職員が年間計画や単元計画に活用しやすくする。

☆仮設団地以外の方にも行事や児童の活動について知らせ、交流の機会を続けていく。

⑤ 教職員のチーム力を活かす学校づくり

○定時退校日やマイ定時退校日を意識したり、業務のスリム化や声かけをしたりしながら業務を行った結果、2学期の労働時間平均は23時間40分で、1学期平均より3時間52分減となった。

○時間外労働時間を年間360時間以内にしようとする意識は高まっている。

○肯定的意見はどの項目も100%であった。

▲項目14・15の強肯定の割合が中間よりも約30%減少し、値も低い。2学期に新しい取組や行事などがあったことや明確な根拠や強い自信がない可能性があることも要因と考えられる。

☆業務や取組内容の改善を図り、共通理解・共通行動の確認をC4th・掲示板・研修・職朝などで行い、業務の見通しがもてるようにする。いつまでに・だれが・どのような業務を行えば良いか、図などで視覚的にも明確にする。